



TITLE:

<大會抄録>カイクバードの時代

AUTHOR(S):

井谷, 鋼造

CITATION:

井谷, 鋼造. <大會抄録>カイクバードの時代. 東洋史研究 1988, 47(3): 589-589

ISSUE DATE:

1988-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/154249>

RIGHT:

使用料は重量・距離のみを基準とした。同法には従事日數、車舟の牛・夫の數、或は輸送の遲速等により諸脚を高下する考え方はみられない。最も高くついたのは車運、最も安價であつたのは諸水沿流の船運であつた。また黄河派流は負般・駄運より高くついていた。唐後半に至つても運賃法は改められず、官脚は民間の私脚よりはるかに安く抑えられていた。また市價より數倍高い虚估計算の絹帛を支拂いに當て、運賃を不當に安くした例もみられる。

カイクバードの時代

井 谷 鋼 造

アラウッディーン・カイクバード一世（在位一二二〇—一二三七）の時代はルーム・サルタナト（セルジュク朝）の最盛期であつたと言われている。それはこのスルターンの時代ルーム・サルタナトが對外的に積極的な軍事行動を展開し、かつそれらを支援すべき國內狀況が安定していたことによる。ルーム・サルタナトの歴史に關わる最も重要な根本史料であるイブン・ビービーの著作にはカイクバード時代の三つの主要な軍事行動として、東部アナトリアをめぐるアイユーブ朝諸王との對戰、クリミア半島の港市スグダクへの渡海遠征、ホラズムシャー、ジャラールッディーンとの對決が擧げられている。本發表ではこれらの軍事行動の具體的な狀況を明らかにすると共に、その背後にあるカイクバードの對外的な基本姿勢とルーム・サルタナトの置かれていた歴史狀況を考えてみたい。

カイクバードの軍事行動は主としてアルメニア、ジャズイーラ等の東部邊境へ向けられたが、これはかつての大セルジュク朝領土への接近を圖ることによりセルジュク家の西アジア支配の復活を企圖し、同時に東西交通に影響力を行使することを意圖したものであつた。また、小アルメニア（キリキア）及びクリミアへの遠征は地中海、黒海を介した南北貿易路の確保を目差したものであつた。このような積極的な對外姿勢の成功と領域の擴大によつて「ウルグ・カイクバード」の時代には來たるべきモンゴル軍進攻の脅威を逃れた人々が多くルームへ避難して來た。ペルシア文學史上最も有名な神秘主義詩人の一人で、ルーム・サルタナトの國都コニヤにメヴレヴィー教團を創設したジャラールッディーン・ルーミーもそうした人々のうちの一人であつた。

マムルーク朝スルターン・
アル・マリク・ル・ムアイヤド・シャイフの時代
（八二五—一二四〇／一二二—一二二一年）について

——ブルジー・マムルーク朝時代の

改革の一例として——

菊 池 忠 純

ブルジー・マムルーク朝第五代スルターンのムアイヤド・シャイフは、第一代スルターン・バルクークのマムルークでスルターンになつたものの一人で、アル・ム・シユラフ・パルスバニー（八二五—